

それは、笑うための
準備なんだ。

国境を越えて、

世代を越えて、

時間を越えて、

伝わるものがある。

上海、東京、ニューヨーク――。

運命に翻弄されながらも、

決して希望から

手を離さなかった、

ある家族の愛の記録。

泣きながら 生きて

ナレーター：段田安則 企画・プロデュース：張麗玲 構成・編集：横山隆晴／張煥琦 撮影：張麗玲／張煥琦／
遠藤一弘／横山隆晴 音響効果：田中政文／渡辺真衣 演出助手：張麗玲 制作進行：張力耘／張芝蘭
制作助手：澤裕之 EED：福谷裕二 MA：清田登 演出：張麗玲／張煥琦 プロデューサー：横山隆晴
特別協力：株式会社大富／大倉商事株式会社 技術協力：TSP 制作・著作：フジテレビ／東方吉祥
配給プロデューサー：鎌尾浩克 宣伝プロデューサー：沙華裕子 ハブリシティ：協力：林三代子／大木麻衣子／藤本美代／関真希／船島清華
上映企画立案・宣伝協力：中村博康 宣伝応援：家谷真嗣／岩井真真／白川静子／戸谷洋子／西野圭亮／前田理芳子
2006.4.13 日本 / カラー / 108分 配給：ムービー・ピクチャー・スタジオ 宣伝：S・ひまわり 宣伝美術：METAMO ©2006 フジテレビ・東方吉祥

nakinagara.net

あの伝説のドキュメンタリーに日本中が再び涙する。

伝説のドキュメンタリーに光を当てたのは、
一人の大学生の真つすぐな想いだった



すべてを受け入れて、
それでも、立ち止まらずに。
時代を恨むよりも、
運命を嘆くよりも、
未来を信じようと思った。
「人生捨てたもんじゃない…」
そんなありふれた言葉が
なぜか深く突き刺さる、
どこにでもいそうな家族の、
なかなか出逢えない10年の物語。

『泣きながら生きて』の劇場上映は、一人の大学生の熱い思いによって実現した。2006年11月3日、ある3人家族の10年を追ったドキュメンタリーが全国ネットでテレビ放送され、高視聴率を記録。放送直後から異例の件数の問い合わせや感想が押し寄せる大反響を呼んだ。その後、多くの視聴者から再放送やDVD化希望の声が絶えないが、放送から約3年が経とうとしている今も、それは叶うことはなかった。しかし、番組に感動した一人の大学生によって、状況が一変する。「この作品をそのまま風化させたくない、もっと多くの人に伝えたい」という彼の思いと働きかけが関係者の心を突き動かし、テレビ番組を全国の映画館で上映するという形で、特別な興行企画が実現することになったのだ。

岐路に立つあなたに——

高校生の時、何の為に勉強しているのか誰も教えてはくれなかった。
就職活動の最中、人は何故働くのかわからなくなった。
大袈裟かもしれないけれど、僕の人生はこの作品に出会って変わった。
悩んだとき、きっとこの作品は、皆さんに寄り添って一緒に答え探しをしてくれると思います。

中村俊喜(慶応義塾大学経済学部4年生)

【STORY】1996年、東京。丁尚彪(ていしょうひょう)は、7年前に妻と娘を上海に残して来日して以来、一度も中国に戻ることなく日本で働き続けてきた。早朝からいくつもの職をかけもちし、深夜にアパートに戻り日本語の勉強をする毎日。稼いだお金はすべて妻子に送金してきた。彼を支えているのは、「娘に一流の教育を受けさせたい」という強い思い。学びたくても学ぶことのできない厳しい時代に育った彼は、次の世代へと夢を託したのだ。1997年。娘の丁琳(ていりん)はニューヨーク州立大学に合格。見事に父の期待に応えた。しかし、それは

一家が東京、上海、ニューヨークと離れ離れになることを意味していた。娘の学費を稼ぐために働き続ける父、夫のいない家を守り続ける母、両親からのバトンを受けて異国で医学に励む娘……。運命に翻弄されながらも懸命に生きる一家の姿は、国境を越えて、世代を越えて、時間を越えて、世紀の大不況に苦しむ我々現代人にとって大いなる励みになるだろう。「15年前日本へ来た時、人生は哀しいものだった。人間は弱いものと思った。でも、人生は捨てたものじゃない」そう語る丁尚彪の言葉には、人生に必要なものばかりが、詰まっている。

—— 上映にこぎつけた現役大学生によるブログも毎日更新!! → ameblo.jp/nakinagara-ikite/ ——

nakinagara.net

ナレーター：段田安則 企画・プロデュース：張麗玲 構成・編集：横山隆晴/張煥琦 撮影：張麗玲/張煥琦/遠藤一弘/横山隆晴 音響効果：田中政文/渡辺真衣 演出助手：張麗玲 制作進行：張力耘/張芝蘭 制作助手：澤裕之 EED：福谷裕二 MA：濱田豊 演出：張麗玲/張煥琦 プロデューサー：横山隆晴 特別協力：株式会社大富/大倉商事株式会社 技術協力：TSP 制作・著作：フジテレビ/東方吉祥 配給プロデューサー：篠尾浩亮 宣伝プロデューサー：汐巻裕子 ハブシティ協力：林三代子/太木麻友子/藤本静代/岡真恵/船島清香 宣伝デザイン：金松温/桐原 聡太郎 上映企画立案・宣伝協力：中村俊喜 宣伝応援：家谷直樹/岩井真寛/白川朝平/戸谷洋子/西野圭亮/前田 理芳子 2006/4/3/日本/カラー/108分 配給：ムーンビームス/ピクチャーズデプト 宣伝：る・ひまわり 宣伝美術：METAMO ©2006 フジテレビ・東方吉祥



1/16(土)よりアップリンクXにて上映 10:30/12:50
料金：一般 ¥1,800/ 高校・大学 ¥1,500/ 中学・小人・シニア ¥1,000

UPLINK X
東京都渋谷区宇田川町37-18 トッネルビル2階
tel.03-6825-5503